

瀬戸市下品野遺跡の発掘調査（その1）

令和3年7月16日

公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター・株式会社 アーキジオ

下品野遺跡は、品野町六丁目交差点付近にある遺跡で、今回の発掘調査は、国道248号と県道22号瀬戸環状線が交差する品野町六丁目交差点に関わる主要地方道瀬戸環状線交差点改良工事事業にともなう遺跡の調査です。

今回の調査により、奈良時代（約1,500年前）の溝（みぞ）1条と平安時代（約1,100年前）の溝1条、鎌倉時代（約800年前）から戦国時代（約450年前）にかけての溝8条、土坑（どこう）2基、江戸時代（約400年前）～昭和時代（約50年前）にかけての家の基礎と思われる石列2条、数多くのゴミ捨て穴が見つかりました。

出土遺物には、奈良時代の須恵器（すえぎ）の杯（つき）と壺（つぼ）など、土師器（はじき）の甕（かめ）、平安時代の灰釉陶器の椀（わん）と皿（さら）、鎌倉時代の山茶碗（やまぢゃわん）、戦国時代の天目茶碗（てんもくぢゃわん）、皿（さら）、播鉢（すりばち）、江戸時代以後のいろいろな椀（わん）、皿（さら）、焙烙鍋（ほうろくなべ）などが見つかりました。

確認された奈良時代から戦国時代にかけての溝は、おおよそ東西方向に流れていることがわかりました。その中で、戦国時代の溝018SDは、幅が2mを超える断面「V」字型をしており、この形状から屋敷（やしき）を囲む溝と考えられます。

発掘調査の期間中は近隣沿線住民の皆様には、ご不便・ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、ご理解・ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。



平安時代の灰釉陶器の皿出土状況（096SD）、南より



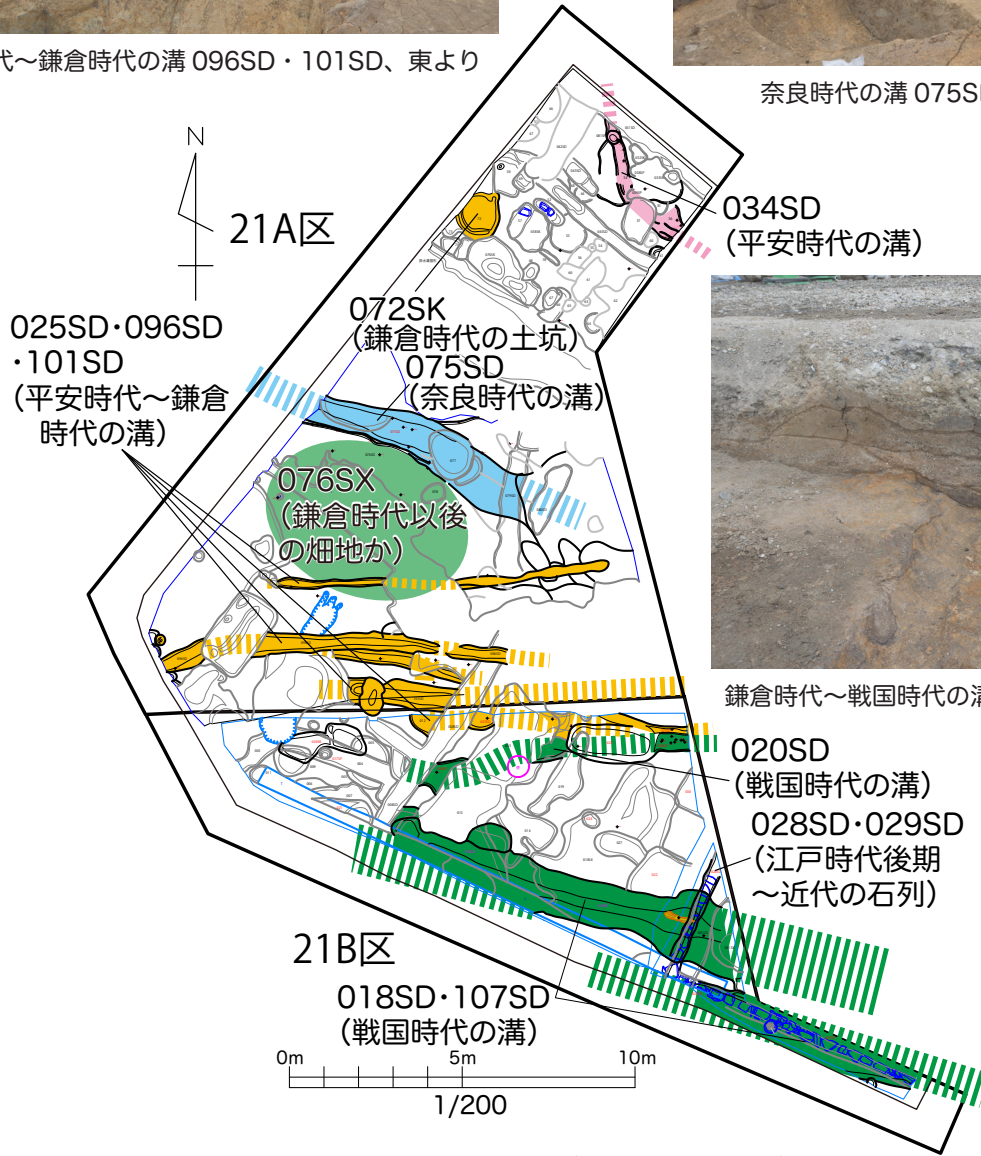
下品野遺跡発掘調査現場の位置



平安時代～鎌倉時代の溝 096SD・101SD、東より



奈良時代の溝 075SD 掘削状況、東より



下品野遺跡 21A区・21B区 (縮尺: 200分の1)



鎌倉時代～戦国時代の溝 020SD・025SD、西より



21B区 (県道22号線側) 全体、東より



戦国時代の屋敷を囲む溝 018SD、西より